



2019

付中通信第7号

コンクールとコンテストの違い

2019.9.28

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

日ごろ、コンクールと言ったりコンテストと言ったり、その違いも区別も分からずに使ってきたのですが、ここ数年、全国規模の大会にも頻繁に出場したり結果も残したりする中で、これはいつからその話を向けられるかわからないと思い始め、恥を晒さぬうちにととにかくググってみました。

・・・同じ意味を持つフランス語と英語の違いです。

日本での使い分けは、コンクールが音楽など芸術の部門のものに多く使われるのに対して、コンテストは芸術以外のものにも広く使われる傾向があります。・・・

なんだそうなのか、早く調べておけばよかった、難しい説明だったらいやだなと思っていましたので、単純な語源の違いだと分かり安心した次第です。それにしても、近年おもしろいようにいろいろなコンテストで受賞することが多くなりました。ちなみに本校は公立中学校で盛んに行われている「合唱コンクール」にはほとんど出場したことはありません(ゼロではないのですが)。



かつてシンフォニア岩国を借

りて開催していた若鷹祭(中学校の文化祭)では、合唱や合奏などもプログラムの大きな位置を占め、保護者に鑑賞いただく手前もあって、練習にかなり時間を費やしてステージに臨んだ時期もありました。

ですから、今生徒らが受賞するのは、上述した言葉の使い分けに従えば、そのほとんどがコンテストにおける成果ということが出来ます。

学校案内に載せているその主なコンテストは以下のラインアップとなります。

- *全日本高校模擬国連大会 平成19年度から11回選抜出場
- *国際理解・協力の高校生主張コンクール 平成22年度から連続8回全国大会選抜出場
- *国際理解・協力の全国中学生作文コンテスト特賞(ニューヨーク国連本部派遣)

- *ESD 国際交流プログラム フランス・ドイツ研修派遣 平成 25 年度から連続 2 回
- *日中韓青年文化フェスティバル 平成 30 年度日本代表校 (中国・北京派遣)
- *ユネスコスクール世界大会 「Student(高校生)フォーラム」中国地域代表 (平成 26 年度)
- *高校生カンボジアスタディツアー (日本ユネスコ協会連盟主催) 選抜 (平成 28 年度)
- *科学の甲子園ジュニア (中学校) 平成 29 年度から連続 2 回全国大会出場

これら一つ一つにドラマがあり、応募した生徒諸君は言うまでもありませんが、それを指導してきた教師の情熱と努力にも並々ならぬものがありました。コンテストへ積極的に参加させてきたのは、広い意味では校外学習の活性化の一環です。ですから本来の目的は賞を勝ち取ることにあるわけではありません。参加するために必要な過程を経験させること、そして大きな大会で自分たちとは違う文化を持った学校の生徒らと交流し交感すること。それが目的のすべてです。

もう一つ、秘密を打ち明けますと、実は本校が応募する大会やコンテストの多くにはある共通点があります。それは、研修旅行が副賞についていることです、しかも海外研修が。コンテストの類は数え切れないほどありますが、その中からユネスコスクールらしい取り組みとして説明でき、しかも只で他校の生徒と一緒に海外研修ができるもの。そういう条件で応募対象は選ばれています。